

公益財団法人宮崎文化振興協会

令和5年度 定時評議員会議事録

1. 日 時 令和5年6月21日（水） 午前9時58分～午前11時48分

2. 場 所 宮崎市橘通西1丁目1番2号 宮崎市民プラザ 4階大会議室

3. 出席者 評議員現在数 5名 定足数 3名

評議員出席 永山英也 辻利則 外山與子 以上3名

（定款第17条第2項の規定による定足数を充足）

理事出席 高島弘行 以上1名

監事出席 酒匂俊宏 吉鶴慶久 以上2名

同席者

（公財）宮崎文化振興協会事務局 次長兼経営戦略課長 安藤邦恵他7名
計 14名

4. 議案 第1号議案 令和4年度事業報告について
第2号議案 令和4年度決算の承認について
第3号議案 監事の選任について

5. 議長選任の経過

司会が開会を宣言した。次に、定款17条第2項により会が有効に成立していることと、定款第20条第2項に基づき、出席した評議員と理事全員が議事録署名人になることを告げた。

続いて、議長については、定款第19条第4項により評議員で互選し、永山評議員が議長を務めることとなり、議長の進行により議案の審議に入った。

6. 議事の経過要領及びその結果

議長は、次の3議案について審議した。

（議案）

第1号議案 令和4年度事業報告について

第2号議案 令和4年度決算の承認について

議長の求めに応じて、第1号議案と第2号議案の説明が続けて行われた。

令和4年度事業報告及び決算の承認について事務局から説明があり、続いて酒匂監事より、会計処理が適正であり、財務諸表等が協会の財産及び損益の状況について、適正に示していると認める旨の監査報告、及び酒匂監事と吉鶴監事から総評があった。その後、本議案に関連して次の意見、質疑応答があった。

（外山評議員） 先ず、科学技術館の入館料無料期間は、子育て世代を応援する事業とのことだが、どのくらいの入館者があったのか。

次に2点目、歴史資料館の天ヶ城歴史民俗資料館にある「かるたで遊ぼう」という事業の中で、盛り上げ隊を結成したという説明があったが、この盛り上げ隊の構成を教えてください。

そして3点目、いろいろな事業を実施されていて、資料を見るだけでワクワクしてくるが、周年記念事業準備資金によって事業が充実している部分もあるのかなと思った。周年の年が終わり、この準備資金がなくなることによって、事業が縮小していくということもあるように感じたが、どのように準備され実施されていくのかを伺いたい。

最後にもう1点、科学技術館において、太陽光発電や風力発電等の次世代のエネルギーに関する展示物があるのかを伺いたい。

(重山副館長) 先ず、入館無料期間については市の施策として実施されたもので、入館者数は14,034人で、金額としては344,200円だった。

次に展示物については、施設として最先端技術を紹介していくという使命を感じているが、そのためには予算が必要で、なんとか四苦八苦しながら取り入れたのが4D-VRや3Dホログラムディスプレイ、トリックプリント等である。エネルギーに関しては、新エネルギーに関する展示品を購入する予算がないというところが実態である。ただ、現在、科学技術館2階の展示物の中にエネルギーサーカスというのがあり、水力発電や火力発電等のいろいろなエネルギーを使って、我々の身近な生活に活用していることが体感できるような展示物になっている。開館当時からある非常に人気のある展示物で、この展示物でエネルギーについて紹介を行っている。

(永井館長) 天ヶ城の「高岡歴史かるた盛り上げ隊」については、令和3年度までは旧高岡町で作成したこのかるたを使って大会として開催してきたが、それだけでは子どもたちへの浸透が弱かったため、子どもたちが参画する盛り上げ隊を作ってもらい、6名のメンバーで大会のお手伝い等の活動をしてもらった。

(高島理事長) 先ほど無料期間について説明したが、全体として期間中に53,000人を超える入館者があった。4才から中学生は14,034人というかたちだが、極端に子どもの数が増えたということではなく、今まで来ていない子どもたちが来るきっかけになったのではないかと考えている。

周年事業について、急に事業が少なくなるのではないかとのご心配については、金額的なものは多少少なくなるが、その分内容を充実させている。例えば、大人向けのプラネタリウムの回数を増やしたり、実施した事業内容を発展させたり、また道路に面する掲示板にチラシを掲示する等、外向けにアピールする取り組みも行っている。事業が極端に少なくなるようなことにはならないようにしたいと考えている。

展示物のリニューアルに関しては、様々な工事が今後予定される中で、その工事期間との兼ね合いもあり、中長期的にいつ頃リニューアルを行っていくのかを考える必要がある。また、最先端技術の準備資金で、リースによりいろいろな展示物の更新を行っている。

(永山評議員) 基本的には指定管理料の中でいろいろな展示をしたり、活動を行ったりは一定程度できる。ただ、特別な周年事業などについては、特に力が入るのでそこは準備資金等で少し差が出てくるという理解でよいか。

(高島理事長) はい。

(辻 評議員) イベント等、参加したくなる事業がいろいろあって良いと思う。全体としては、大淀川学習館は幼少、科学技術館は小中学校、歴史資料館は大人というように各施設の利用世代に違いがある。ターゲット世代等、全体としてのビジョンはあるのか。

また、入館者数で分析したいと思った場合に、展示等、普通の状態の時の入館者と、イベントを実施した時の入館者を分けることができるのか。単純に足して割ってしまうと見えなくなってくるので、展示とイベントで分けてみると、イベント時の入館者が多ければ、イベントの内容が良かったということも見えてくる。または曜日ごとに入館者数を分析できると策を練るのにいいのではないか。

最後に、歴史資料館は県外からの団体客の利用が多く、教育施設という部分もあるが、旅行先でその土地の歴史に触れたいということで、観光目的で利用されるところもあると思う。観光協会等に積極的に広報などをされてこのような状況になっているのかを伺いたい。

(高島理事長) 先ず世代間の交流に関しては、各館に特性がありパンフレットで提示している。ただ、歴史資料館でのデイキャンプについての説明の中で、他館との初の連携という言葉があったように、昨年より実施し始めたところである。

学校関係に対しては、各館の展示物についてその学習内容と該当学年を示したガイドブックを作成し、県内の教育委員会に配付しており、そのような利用もしていただいている。まだ施設のポテンシャルを生かした取組が足りないと感じているので、もっと進めていきたいと考えている。

また、入館者数の分析については、記録はあるが昨年まではあまり分析を行っていなかった。しかし、イベントと入館者の違いというのは記録しているので、どのイベントが多いというのは把握している。細かな分析を開始したのが今年の春休みと5月の連休からで、試しに科学技術館から取り掛かったところである。その分析を今後有効に活用していけば、手法が変わってくるのではないかと考えている。有料入館者数がどう変わってきているかもデータを細かく取り始めたところで、まだ分析が足りないということは認識しており、今後引き続き取り組んでいきたいと考えている。

次に観光については、昨年度は県外との交流がほとんどできない状況だったが、そのなかで歴史資料館については、佐土原城跡が「続日本100名城」に認定されており、旅行会社の団体利用の実績があった。科学技術館は宮崎駅に近く、観光協会との連携が非常に重要であり、駅の案内所の方に施設のパンフレットを昨年4月から設置するようにした。また、科学技術館の館内には観光ブースがあり、そこで県内の観光を紹介している。モバイルガイドシステム等、多言語化にも取り組んでおり、クルーズ船の寄港も今後増えてくるので、その受入れができるかという部分も観光協会と話をしながら組み立てていきたい。

(永井館長) 佐土原城跡は「続日本100名城」に認定されているため、佐土原歴史資料館が休館していても訪れる方はいる。また生目の杜遊古館については、生目古墳群に隣接しているため、関東や関西の複数の旅行会社等の古墳のツアーの利用があったが、コロナ前よりは利用は減っている。

この利用については、広報的なものというよりも、旅行会社が南九州の古墳や城跡のツアー企画を随分以前からやっていたり、著名な大学の先生の講座の受講生によるツアー等があり、史跡そのものが全国区の知名度になってきているというところがある。

その場合、インストラクターが付いてくる場合と、館の方に説明依頼がある場合があり、生目の杜遊古館の方では対応できるものは対応しているが、佐土原歴史資料館では休館日が多く平日は対応できないため、ボランティアが対応するかたちもとっている。

また、佐土原城跡が台風被害で登城できない状況があることから、利用者から公開状況について問い合わせを受けることがある。そちらについては史跡を管理する教育委員会とも連携して、それぞれのHPを活用する等、広報をしっかり行っていきたい。

(永山評議員) 昨日、正に観光協会や県外事業所等とディスカッションをしたが、宮崎の観光の欠点は雨の日に過ごす場所がないというところで、生目の杜遊古館であったり、プラネタリウム、大淀川学習館であったり、教育施設でもあるこの施設をどう位置付けていくかという戦略が必要だという議論をしたところだった。

私の方からも質問と意見だが、すごく多くの事業をやっているのにすばらしいと思う。もっと情報発信が必要だなと改めて思った。

また、少し課題認識として思ったのが、小学生はたくさん学んでもらっているが、中学生の数は意外なほど少なく、これは一度教育委員会とも話をしてみたい。やはり同じ施設を見ても、小学生と中学生では学び方や感じ方は違うし、そこに成長があると思う。せっかく宮崎にこれだけの施設があるのだから、歴史、科学技術、自然についてもっと学ぶべき時期にある中学生をもっと巻き込んでいくために連携していく工夫ができないか。

次に、先ほど最新の科学技術について施設の整備が潤沢にはいかないという話があったが、宮崎にある大学や高専と連携して、定期的に大学の最先端の研究を発表したり、面白いものを展示したり、施設そのものが作るものだけではなく、大学のものを使ってということも有り得るのではないかと思うが、今の取組も含めて教えてほしい。

最後に、入館者数が増えてきているのは良いことだが、これだけの活動をやっている宮崎文化振興協会の成果を、どう世間または市に対してアピールしていくのかという意味でいうと、数の議論だけではないと思う。施設に来館した子どもたちが科学技術や自然、歴史に関する関心が高まって、また来たいと思ったかという定性的なものかもしれないが、よくワークショップ等では、以前の意識と1日経過した後の意識で同じアンケートを実施して意識の高まりを計ったりすることもある。文化振興としてこういう成果が上がっているということ、数だけではない示し方についてもぜひ研究してほしい。それがこれからの宮崎の文化振興に対しても大事であり、協会にとっても大切なことになるのではないかと思う。

(重山副館長) 中学生の利用が少ないのではということだが、最新技術である4D-VRを導入してから中高生の利用は増えた。まずは来てもらうことが重要で、最近では客層が以前と変わったように職員も感じており、保育園、幼稚園、小学生の利用は以前と変わらないが、加えて中高生や大学生、大人が来るようになったことは実感している。

4D-VRの3つのプログラムを全て体験した方も出てきたことから、今年4月に1つプログラムを増やしたことで、また多くの中高生の利用があった。4D-VRや3Dプログラムの導入は、中高生を集客する大きな要因となっており、今後もそういう仕掛けをしていきたいと考えている。

次に大学との連携については、これまで「命の科学フェア」を開催する際、医学部にいらっしゃった先生に来ていただいていたが、昨年度から宮崎大学の農学部、工学部、教育学部の教授に講師として来ていただいて、

科学技術館にて「チャレンジサイエンス」を2回ずつ、計6回実施した。これが非常に好評で、今年もすでに実施して満席の状態だった。科学館が行う内容とは異なる内容で実施いただき、同時に大学のアピールもされている。お互いにメリットがあると感じているので、今後も継続していきたいと考えている。

(高島理事長) 中学生の数は子ども料金の中に含まれていて、個人としては4才から中学生までは、一律子どもとして統計上はカウントされている。そして、団体のところだけ小学生、中学生での分類をしているので、正確に中学生がどのくらい来たのかというところは把握できていない。

中学3年生の時に学ぶプログラム等は全て準備をしており、星空教室等も開催しているが、団体としての利用は、市内の小学校47校中38校の利用がある一方、中学校は25校中1校の利用となっている。そのため、先生方を呼んで、科学技術館、大淀川学習館の良さや内容を知っていただくことに昨年、今年と力を入れている。

また、授業で使うタブレットに科学技術館のデータを入れてもらって、それをどう授業に活用していくかということを昨年度に研究している。今年、タブレットにデータを入れる許可がおりるのではないかと期待している。

アンケートについては分析までは行っていないところなので、そういうものも活用しながら、意識や習熟度という面から協会をアピールするというかたちは進めていく必要があると意識したところである。

第1号議案は、報告事項であり審議を終えた。

第2号議案について、審議後、議長が諮ったところ、特段の異議もなく、満場一致で可決した。

第3号議案 監事の選任について

事務局から、当協会の吉鶴監事より、本定時評議員会をもって監事を辞任する旨の辞任届が令和5年6月6日付で協会あてに提出されたことを報告した。次期監事1名の選任について略歴をもとに説明があった。審議のうえ、議長が諮ったところ、特段の異議もなく、満場一致で可決した。

(辞任) 吉鶴慶久

(新任) 阪元裕一

なお、任期は前任者残任期間の令和6年度定時評議員会の終結の時まで。

以上をもって議案の審議等を終了したので、午前11時48分に司会が閉会を宣言し、解散した。

上議決を明確にするため、本議事録を作成する。

なお、以上この議事録が正確であることを証するため、出席した評議員及び出席した理事は次のとおり署名する。

令和5年 6 月 24 日

公益財団法人宮崎文化振興協会 令和5年度 定時評議員会

議 長 永 山 英 也
評 議 員

評 議 員 辻 利 則

評 議 員 外 山 與 子

理 事 高 島 弘 行